

**製品名: DUSP6 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86729**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:100,FC 1:50-1:200,IP 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:42 kDa; Observed MW:42 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DUSP6
別名	HH19; MKP3; PYST1
遺伝子 ID	1848
SwissProt ID	Q16828
免疫原	ヒト DUSP6 の合成ペプチド

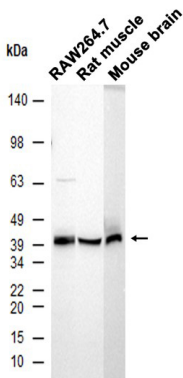
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、二重特異性タンパク質ホスファターゼサブファミリーのメンバーです。これらのホ

スファターゼは、ホスホセリン/スレオニン残基とホスホチロシン残基の両方を脱リン酸化することにより、標的キナーゼを不活性化します。これらは、細胞の増殖と分化に関連するマイトジェン活性化タンパク質（MAP）キナーゼスーパーファミリーのメンバー（MAPK/ERK、SAPK/JNK、p38）を負に制御します。二重特異性ホスファターゼファミリーの異なるメンバーは、様々な MAP キナーゼに対して異なる基質特異性を示し、組織分布と細胞内局在が異なり、細胞外刺激による発現誘導様式も異なります。この遺伝子産物は ERK2 を不活性化し、様々な組織で発現し、特に心臓と膵臓で高いレベルで発現します。また、このファミリーの他のほとんどのメンバーとは異なり、細胞質に局在します。この遺伝子の変異は、先天性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症と関連付けられています。この遺伝子には、選択的スプライシングによる転写変異体が見つっています。[RefSeq 提供、2014年1月]

## 研究分野

## 画像データ



RAW264.7 細胞およびラット筋肉、マウス脳組織からの抽出物を DUSP6 ウサギモノクローナル抗体を使用して 1:1000 でウエスタンブロット分析しました。